

## 研究院の今後のあり方について

### 1 現状と課題

研究院においては、研究費のあり方が外部研究費の獲得に重点を置かれる中、重点研究分野における共同研究を推進するとともに、競争的外部資金獲得に向けた支援に注力してきました。

一方、教育の実施体制に関する計画である「教育組織と研究組織を分離し、研究院（病院に所属する教員以外の教員が所属し研究を行う。）や病院から、教育カリキュラムに応じてコース等の管理運営の責任者が必要とする教員を確保できる仕組みの確立」については、十分な取組みができない状況にありました。

その結果、現在も以下のような課題を抱える状態となっています。

- (1) 研究面においては、学部を超えた融合が十分に進んでいない。
- (2) 教育面でも、国際総合科学部と医学部における連携が進んでいない。
- (3) コースの見直しや教室運営体制の改善が進んでいない。

### 2 課題解決に向けた取組

上記課題を解決し、領域横断的な研究の推進、学部・大学院横断的な教育体制の確立、コースや教室の再編による学部教育の改善に取り組むとともに、全学的な取組みが一層求められる地域貢献や国際化についても検討を進めていくため研究院の再編を行い、以下のような取組を進めていきます。

- (1) 学長のリーダーシップに基づいた調整やマネジメントがより発揮できる仕組みを確立する。
- (2) 学長をリーダーとして副学長、研究科長、学部長、病院長等を構成メンバーとした調整会議において、最先端の研究拠点形成に向けた研究ユニットの設定や、学内横断的な取組が必要な地域貢献や国際化といった分野についてもユニットを設定する。
- (3) 教育面に関しても、学長のリーダーシップに基づいて学部教育の改善・充実にむけた検討ユニットを設定する。
- (4) 再編した研究院の本格稼働は第2期中期計画の開始に合わせた23年度からとし、22年度は再編する研究院への移行期間として、調整会議・ユニットの試行や所管事務局の整備など、23年度に向けた準備を行う。

#### 【参考】

- \* ユニットとは、研究や活動を推進する複数人で構成されるそれぞれの目的の推進単位をいい、学長等による調整会議で名称やメンバーを決定する。
- \* 現行の研究院には、病院教員が所属していないが、今後は教育研究の分野において病院教員も含めた全教員が所属する組織としていく。
- \* 今後、再編された研究院の運営方法や事務局体制等、所属全教員による教育研究活動が活性化できる仕組みについて、検討を進めていく。

研究院再編後の運営イメージ（案）

再編した研究院組織（案）

